

8月9日刊行予定!

『流星のソード』 名探偵・浅見光彦 vs. 天才・天地龍之介



3月30日に開催したイベント「柄刀一先生 北区交流会」で柄刀氏にお聞きしたお話を、浅見光彦と天地龍之介のコラボレーション企画第2弾『流星のソード』を中心にご紹介!

神様に愛された作家

コラボレーション企画第一弾『ミタスの河』の構想は、デビュー当時から温めていたものだったと語る柄刀氏。テーマに取り上げた白血病は柄刀氏も以前からドナー登録していたようですが、出版後に競泳選手のニュースで大きな話題となりました。そのことについて訊ねると、「内田さんの作品って、書かれたことが直後にニュースになることがよくありますよね。これも、そういうのかもかもしれません」とのこと。

執筆時には、端々に内田康夫の助力を感じたという柄刀氏。「僕は雨男なんですけど、『ミタスの河』の山梨取材の時はずっと晴れていたんで、内田さんが助けてくれていたんだなと感じました。あと、物語の進行に悩んでいたとき、偶然見えていたテレビで取り上げられた言葉から閃いて、『ああ、明日からこれを書けばいいんだ』ということがありました。たぶん内田さんも、こういう閃きをずっと経験してきたんだろうなと思います。きっとこれも内田さんが助けてくれたんだなあと感じました」

また内田康夫には、同じ作家から見ても不思議なところがあるようです。「内田さんはプロットをまったく作らないでしよう。それなのに、自分でも知らないうちに伏線



と、出版予定の四ヶ月以上も前に早くも脱稿を宣言。書き上げた原稿は、およそ六八〇枚とのこと。「前作では九五〇枚くらいになってしまいましたので、今回は五〇〇枚程度にと担当編集者から言われていたのですが……。これから削る作業を命じられるかもしれないですね(笑)」

気になる『流星のソード』の内容について、以前 柄刀氏は「陽一郎さんが出すっぱりの作品になる予定」とコメントをくださいましたが、「五〇〇枚程度の内容にしようということになったので、今回はカットせざるをえませんでした。『流星のソード』の続きを書いて良いということになれば、そこで出てくると思うんですけど」と、次回作を匂わせる発言も。陽一郎が登場しないのは残念ですが、代わりに浅見兄弟の末妹、佐和子が登場するかもしれません。冒頭に浅見家の食卓のシーンが出てくるのですが、そこで陽一郎さんが出席する北海道での国際刑事局

長サミットの話が出ます。そのサミットの通訳として、ニューヨークから佐和子さんが帰国するという話も。そして、同時に光彦君も仕事で北海道に行くから、もしかしたら会えるかもしれない——」というなんとも楽しい展開。そしてその光彦の仕事というのは、過去に関わった「小樽殺人事件」と繋がりがあるそうです。また、他にも「化生の海」の余市が出てくるとのこと。「ちょうど去年、余市にインターチェンジができたんですよ。ルポライターの仕事で、そっちに行くのもいいだろうと思って」



流星から生まれた刀

タイトルにもなる流星刀を、柄刀氏は新聞記事で知ったそうです。「榎本家にあった流星刀を、縁のある小樽の龍宮神社に納めた」という記事でした。榎本武揚が、落ちてきた流れ星から作ら

つかとう はじめ一九五九年北海道生まれ。一九九八年に『3000年の密室』でデビュー。「天才・龍之介がゆくー」シリーズ他、著作多数。



が張られていて、最後にこの人物が犯人なのか——と気づくというのが、本当に不思議でなりません。ある方が解説に『囲碁が得意でいらしたから、大局観でしよう』と書いていましたけど、それだけではないと思います。天からの助けがないと、あんなことをずっとやり続けられないですよ。だから内田さんは、神様に愛された作家なんだろうなあと思います」

その言葉には、居並ぶ「浅見光彦友の会」会員の方々へのリップサービスばかりとは思えない実感がこもっていました。

兄・陽一郎と妹・佐和子

柄刀氏の担当編集者も「参加の中、第二弾『流星のソード』の執筆状況をお訊ねすると、「ひとまず書き終わりました」

せた短刀。僕はそういうロマンが好きなのですから、わあ、これ面白いなあと。それに北海道を舞台にしようと思っていただけから、これはいい。龍之介はそういうのが大好きですからピタリだと思いましたし、歴史が得意な光彦君も入ってくれば——と、流星刀と榎本武揚をテーマの二本柱にしようと思ったわけです」

光彦と龍之介の活躍

最後に今作ならではの読みどころについて伺いました。「最良したわけじゃないですが、前作『ミタスの河』では龍之介の方が光彦より推理の部分がちょっと多めだったんです。でも今度の『流星のソード』は龍之介がちよつと控えめで、その分、光彦君が活躍しています」

刊行まであと一カ月。はたして浅見光彦と天地龍之介は、北海道でどんな難事件に遭遇するのでしょうか?

天地龍之介とは?

小笠原諸島で育ったIQ190の天才。ちょっと天然で生活力はゼロ。秋田で生涯学習施設の所長を務める。30歳近くになっても少年のような童顔。驚異の博覧強記ぶりで数々の難事件を解決。

夏の特別セット

9/20 締切

『流星のソード 名探偵・浅見光彦 vs. 天才・天地龍之介』、新グッズ「浅見さんとお散歩バッグ」に、おまけとして新グッズ「浅見水彦」をおつけした、「夏の特別セット」を通信販売いたします(グッズは7頁参照)。 ☆「浅見光彦 友の会」の皆様へはチラシを同封しております。



柄刀一・著

流星のソード

名探偵・浅見光彦 vs. 天才・天地龍之介

本体1,850円+税

流星刀公開日に起こった毒殺と海岸で発見された遺体。何の繋がりもない二つの事件は連続殺人なのか!? 再会した名探偵二人が事件の真実と刀工一族の秘密に迫る。傑作ミステリー!

祥伝社